信越化学工業株式会社 2027 年 3 月期第 2 四半期 決算説明電話会議要旨	
日　　時	2026 年 10 月 27 日（火）　16：30 - 17：30
開催場所	信越化学工業（株）
会 社 側 出 席 者	・代表取締役社長　斉藤 恭彦 ・取締役兼専務執行役員 半導体事業担当　轟 正彦 ・執行役員 経理関係担当　笠原 俊幸 ・執行役員 広報関係担当　大西 聡 ・広報部長　福井 真二
参考資料	・2027 年 3 月期第 2 四半期（中間期） 決算短信

＊ このメモは電話会議でお話しした内容をまとめたものです。

【決算概要説明　（社長 斉藤恭彦）】

- 2027 年 3 月期第 2 四半期（2026 年 7-9 月）
  連結売上高：　7,582 億円（前年同期比 16%増）
  営 業 利 益：　2,121 億円（前年同期比 27%増）
  経 常 利 益：　2,229 億円（前年同期比 20%増）
  当期純利益：　1,561 億円（前年同期比 19%増）
- 4-6 月に続き前年同期比で増収増益
- 一株当たり中間純利益は前年上期比で 14%の増加を達成

［セグメント状況］

- 【電子材料】:

・ AI 関連市場の拡大が需要を牽引し、他の分野もおおむね回復して、当社の電子材料生産はフル稼働している。

・ 最近私が面談や会議をした顧客の経営トップの方々は皆、追加供給を求め、かつ今後の供給量を優先事項としていた。対応していくには投資を要するので、ウエハーに限らず、当社の手掛ける多くの品目で必要な投資とそれを支える価格他の条件設定に取り組んでいる。

・ 磁性材料は、重希土使用を最小限にする喫緊の対策を顧客とともに進める一方、複数の原料対策に鋭意取り組んでいる。

- 【生活環境基盤材料】:

・ 米国の塩ビ需要動向について、今年 7-9 月の国内販売数量は業界統計によれば、前年同期比で 7%増えた。7-9 月は、4-6 月よりは減っている。

・ 米国の市場価格は 7 月にポンドあたり 3 セント下がったが、その後踏みとどまって、今月打ち出した値上げは全額ではないとしても通る見込み。当社から見ると、米国での今月の売行きは 9 月並みで、11 月の見通しは悪くない。
・ 一方、海外市場では 7 月に値上げを通し、その後市況は一進一退となったが、ここへ来て値上げが出来ている。
・ ソーダ市況は比較的安定している。

● 【機能材料】:

・ 機能品・特殊品を格段に伸ばす方針に変わりなく、そこに集中している。その成果は総平均単価の上昇に現れていて、収益向上につながっている。

● 【加工・商事・技術サービス】:

・ 当セグメントの収益も信越ポリマーの決算予想の上方修正に示されたとおり、半導体関連を中心に伸びている。

[今期の業績予想について]

・ 今期通年の業績予想は据え置きとしたが、皆さまのご期待に沿えるよう業績伸長に取り組んでいる。なお、原油価格動向とその影響にいっそう注意を払い、適時対応をしていく。

【補足説明 （執行役員 経理関係担当 笠原俊幸)】

● 【決算短信 8 ページ】:

・ 業績予想について、 1 株当たり純利益 286 円は前期比増加率が 13%となる。2,500 億円の自己株式取得による株数減少により、純利益予想 5,250 億円の 11%増より増加率が大きくなっている。

● 【決算短信 16 ページ】:

・ 投資額と減価償却費の年間予想について、投資額の予想を 3,800 億円に変更している。主に投資計画の進捗が前倒しになっていることによる。

● 【決算短信 17 ページ】:

・ 貸借対照表について、長期借入金が今上半期中に 1,611 億円増加している。設備投資資金や株主還元資金など、旺盛な資金需要に対応し、利回りの高い手持ちのドル資金を温存し、円資金を借りたもの。借入金を差し引いたネットの手持ち資金残高は前期末から約 720 億円減少し、約 1 兆 3,500 億円となっている。
・ 株主資本について、2,500 億円の自己株式取得を今上半期中に完了したため、自己資本比率は 75.6%に低下している。

● 【決算短信 19 ページ】:

・ 業績予想における 10 月以降の想定為替レートについて、年間の業績予想は変更していないが、US ドルは 157 円前後（修正前 160 円前後）に、ユーロは 176 円前後（修正

前 180 円前後）に、それぞれ円高方向へ見直している。

- 【為替感応度】:

・ 2027 年 3 月期の経常利益の為替感応度は US ドルで年間 36 億円、ユーロで 2 億円。（円安で益、円高で損。）

【質疑応答】

〈電子材料〉

Q	半導体ウエハーの 2Q の市場動向について
A	・ ウエハー市場全体は、前四半期比 1 桁%半ば、前年同期比 10%強の増加でした。 ・ 300mm ウエハー市場は、前四半期比 1 桁%半ば、前年同期比 10%強の増加でした。 ・ 200mm ウエハー市場は、前四半期比微減、前年同期比は 10%強の増加でした。 ・ 150mm 以下は前四半期比 1 桁%半ば、前年同期比は 20%を超える増加でした。
Q	半導体ウエハーの 3Q 以降の見通しについて
A	・ 当社を含めたウエハーメーカーでの定期修理の影響もあり、数量は 7-9 月に対しおおむね横ばいで推移すると見込んでいます。口径別にも大きな変化は無いと見ています。
Q	半導体ウエハーの長期契約の考え方と価格見通しについて
A	（長期契約について） ・ ほとんどのお客さまがウエハーの需給がタイトであるとご理解されており、今後の逼迫懸念から既存契約中でも次期交渉を始めているお客さまが増えてきております。 （価格見通しについて） ・ 先端品（ロジック中心）は価格を細分化しており、先端品が増えれば平均価格は上がるという構造になっています。 ・ 増量分については、価格アップをお客さまに要請し協議中です。
Q	半導体ウエハーの長期契約の更新と 2028 年以降の価格について
A	・ 契約満了時期はお客さまごとに異なります。 ・ ブラウンフィールドでの増強を優先し、グリーンフィールド投資は相当コストが高くなっているため、慎重に検討してまいります。

	・ 過去の稼働低迷期も踏まえ、過大な発注計画のリスクを警戒しています。今後の設備投資、原材料費等のコスト上昇を踏まえ、契約期間および価格を協議しています。
Q	半導体ウエハーの短期的な見通しについて
A	（価格について） ・ 既存契約量を超える部分や契約の無いお客さまに対しては、コスト上昇を踏まえた交渉を行っています。お客さまによりこの 10 月から値上価格適用となります。 （生産能力について） ・ 来年前半はブラウンフィールドで設備を増強することにより、限定的に増産可能ですが、現行能力が大幅に増える規模ではありません。
Q	先端品向けの投資・価格転嫁の考え方について
A	・ 先端品は生産性や検査等で大幅なコスト増となることはお客さまもよく理解されており、それらの分は価格に転嫁させていただくということは従前から行っております。
Q	200mm ウエハー事業について
A	（足元の状況について） ・ 現在の需要はコロナ特需のあった 2021 年から 2022 年のピーク時の４分の３程度となっています。コロナ後４年ほど低迷したため、生産体制の見直しを行い、現在に至っています。ここにきて AI 関連の需要拡大ならびにそれ以外のものも底打ちし需要が上昇しつつあり、高稼働が続いています。 （今後の見通しについて） ・ 200mm 需要の比率が高い車載向けはまだ低調で、今後の動向が一つの大きなポイントと見ています。
Q	希土類磁石事業について
A	・ レア・アース市況連動と、価格式の変更とによって希土類磁石の価格は上昇しました。 ・ 数量も増えており、価格効果と数量効果の両方が重なって利益率が上昇しています。
Q	ウエハー以外の電子材料製品の値上げについて
A	・ 電子材料の製品群で、全方位に値上げの取り組みをしています。 ・ 原料などの値上がりを価格に転嫁するとともに、お客さまのための投資に伴う価格改定や、先端品の値段の差別化など、複数の要素の組み合わせで値段をあげています。

〈生活環境基盤材料〉

Q	シンテックの 3Q（7-9 月期）の業績について
A	・ ドルベースの経常利益は前年同期比、前四半期比でいずれも減益です。
Q	シンテックの 4Q（10-12 月期）以降の見通しについて
A	（北米市場で塩ビの値上げができている背景について） ・ 今月値上げができている要因は、輸出市場で値上げができていることと、秋需がある程度しっかりしていることの二つです。 （4Q の定期修繕について） ・ 昨年の 4Q と同規模の定期修繕を現在進めています。 （来年の塩ビの年次契約について） ・ 現在、来年の契約交渉が進んでいます。年初の価格改定についても、まさに今、交渉を行っていますので、具体的な状況については差し控えます。 ・ 今年は年次の契約更改に伴う価格調整が業績の足を引っ張りました。来年に向けて、これを最小限に食い止めなければならないという姿勢で交渉に臨んでいます。
Q	北米における産業投資関連の塩ビ需要について
A	・ アメリカの住宅市場はさえませんが、データセンターをはじめとする産業投資が相当進んでいるため、塩ビの需要はこれに支えられています。その結果、季節的な要因にはあまり左右されなくなっているのではないか、と見ています。 ・ お客さまはデータセンター向け製品の動向をおおむね把握していますが、需要はそれだけではありません。データセンターに水を供給するためのパイプ等もあるので、必ずしも需要の全体像を捉えきれていません。 ・ 今年９月までの累計で北米の塩ビ需要は２％増えています。今年の住宅着工件数の水準を踏まえると、データセンターおよびその周辺、さらには広い意味での社会インフラ投資が、この２％の需要増を上回る数量に相当していると見ています。

*米国子会社シンテックは 12 月期決算であるため、信越化学の連結決算上、四半期ベースで 1 四半期の期ズレが生じます。信越化学の第 2 四半期（2026 年 7-9 月期）には、シンテックの第 2 四半期（2026 年 4-6 月期）が取り込まれています。

〈機能材料〉

Q	セグメントの利益率が上昇した要因について
A	・ シリコーンは付加価値の高い製品の販売量が増えています。汎用と高付加価値品の間に位置しているものについても、お客さまの要望に応えることで、値段を上げさせていただいております。 ・ セルロースは製剤向けの比率が高くなり、その中でも利益の高いものの販売が増えています。